

平成 29 年度
事業報告書

(1)本 部	1
各事業部会	7
(2)盲人ホーム杉光園	16
(3)日盲社協レッツゴー事業所	18
(4)東京視覚障害者生活支援センター	20
(5)検定試験事業	26
(6)附属明細書	27

社会福祉法人
日本盲人社会福祉施設協議会

平成 29 年度 日盲社協事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

社会福祉法人

日本盲人社会福祉施設協議会

《総論》

春の訪れと共に、日盲社協も前年度の事業報告の季節に入ります。各部会の事業報告もたくさん出ましたが、本部でも大きな三つの課題がありました。一つは、昨年から東京視覚障害者生活支援センターは 34 年続いた東京都からの指定管理がなくなり、自力運営になりました。新しい事業充実のためには、知り合いや先輩方に事業展開について聞くことの多い日が続いたようです。また、同行援護を行うレッツゴー事業所もよくがんばりましたが、結果として、30 年秋には事業をやめるか続けるかの判断を迫られるまでになった一年でした。私たちとしては、この二つの事業が社会貢献できるように力を得てほしいと期待します。

また、盲人ホーム「杉光園」は、本年度、ひとり一人の課題を把握し、利用者の施術改善指導に努めました。そして一日でも早く職業人として「社会自立」ができるよう個人面談、ハローワーク・企業に出向いて情報の収集に努め、その結果 2 名が就労できました。うれしい年となりました。

《本部》

1. 役員会等の開催

(1) 理事会 7 回開催(決議省略による理事会 2 回含む)

第 1 回理事会

期 日	平成 29 年 5 月 23 日(火) 13:30～15:45
場 所	東京文化会館 4 階 中会議室 2
議 題	1 平成 28 年度事業報告(案) について 2 平成 28 年収支決算報告(案) について 3 財産目録(案) の承認について 4 新役員の候補者について 5 定時評議員会の日時・場所・議題について 6 第 65 回全国盲人福祉施設大会について
出席状況	理事 9 名、監事 1 名出席により成立

第 2 回理事会

期 日	平成 29 年 6 月 9 日(金) 15:00～17:00
場 所	TKP 上野御徒町ビジネスセンターカンファレンスルーム 2B
議 題	1 新理事長の選出について

- 2 新常務理事の選任および業務執行内容について
- 3 新顧問、新参与の推薦について
- 4 定款細則案について
- その他意見交換

出席状況 理事 9 名、監事 2 名出席により成立

第 3 回理事会

期 日 平成 29 年 7 月 28 日(金) 13 : 00~14 : 30

場 所 商工会館 8 階 8 A 会議室

- 議 題
- 1 評議員選任・解任委員の後任者選任について
 - 2 高橋秀夫氏の理事就任手続きについて
 - 3 事務局長について

出席状況 理事 7 名、監事 1 名出席により成立

第 4 回理事会(決議省略による)

決議があったものとみなされた日 平成 29 年 10 月 2 日(月)

決議があったものとみなされた事項 「音声版選挙公報資材費等積立金取り崩しについて」

第 5 回理事会(決議省略による)

決議があったものとみなされた日 平成 29 年 12 月 21 日(木)

- 決議があったものとみなされた事項
- 1. 日盲社協経理規程の改正について
 - 2. 会計ソフトの導入について

第 6 回理事会

期 日 平成 30 年 2 月 20 日(火) 13 : 30~17 : 00

場 所 東京視覚障害者生活支援センター 2 階 調理実習室

- 議 題
- 1 平成 29 年度収支補正予算(案) について
 - 2 平成 30 年度事業計画(案) について
 - 3 高橋秀治氏が理事長の役職のほか平成 30 年度より日盲社協法人本部事務局職員として勤務することについて
 - 4 平成 30 年度収支予算(案)について
 - 5 第 66 回全国盲人福祉施設大会(下関大会)について
 - (1)大会日程案
 - (2)予算案

出席状況 理事 10 名、監事 1 名出席により成立

第7回理事会

- 期 日 平成30年2月26日(火) 14:55～17:15
場 所 東京視覚障害者生活支援センター 2階 調理実習室
議 題 1 平成30年度収支予算(案)について
(1) 日盲社協レッツゴー事業所拠点
平成29年度第二次補正予算案再審議 含む
(2) 本部拠点
2 平成30年度事業計画(案)について
(1) 日盲社協レッツゴー事業所拠点
(2) 本部拠点
3 3月開催の評議員会の招集について
4 日盲社協レッツゴー事業所の廃止について
出席状況 理事10名、監事1名出席により成立

(2) 常務理事会 5回開催

第1回常務理事会

- 期 日 平成29年4月25日(火) 13:30～17:00
場 所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 所長室
討議事項 1 定款細則案について
2 第1回理事会に提示する議案について
3 第65回全国盲人福祉施設大会(岐阜大会)の内容について
4 平成28年度事業報告案ならびに収支決算報告案について
その他、報告等

第2回常務理事会

- 期 日 平成29年7月6日(木) 15:00～17:30
場 所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 所長室
討議事項 1 来年の全国大会開催地と開催日、翌年の開催地について
2 センターエレベーターの修繕費と理事会の承認について
3 高橋秀夫氏の評議員選任・解任委員退任に伴う後任者について
4 高橋秀夫氏を理事にする手続きについて
5 点字検定試験と点字指導員講習会の相違について
6 本部事務局の新体制について

第3回常務理事会

- 期 日 平成29年8月29日(火) 13:30～16:30
場 所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 所長室
討議事項 1 経理業務のスリム化について

- 2 日盲社協経理規程の改正について
- 3 視聴覚障害者災害支援協会(仮称)の設立について
- 4 第66回全国盲人福祉施設大会について

第4回常務理事会

- 期 日 平成29年11月28日(火) 13:30~17:00
 場 所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 所長室
- 討議事項 1 日盲社協経理規程の改正最終文案確定について
 2 会計ソフト『福祉大臣』の導入について
 3 日盲社協各拠点の平成29年度収支決算見込みについて
 4 その他
 (1) 理事長の所属について

第5回常務理事会

- 期 日 平成30年1月30日(火) 13:30~17:00
 場 所 東京視覚障害者生活支援センター 1階 所長室
- 討議事項 1 視覚障害者の最近の諸問題をどう取り組むか
 2 「サイトワールド」の運営受託の可否について
 3 東京視覚障害者生活支援センターの建替え準備について
 4 高橋が本部で働くことについて
 5 平成29年度補正予算案および次年度当初予算案について
 6 第66回全国盲人福祉施設大会(下関大会)のテーマについて

- (3) 評議員会 3回開催(決議省略による評議員会1回含む)

定時評議員会

- 期 日 平成29年6月9日(金) 13:00~15:00
 場 所 TKP 上野御徒町ビジネスセンターカンファレンスルーム2B
- 議 題 1 平成28年度事業報告(案)について
 2 平成28年収支決算報告(案)について
 3 財産目録(案)の承認について
 4 新役員の選任について
 5 名誉会長の選任について
 6 第65回全国盲人福祉施設大会について

出席状況 評議員10名、理事4名、監事2名出席により成立

第1回臨時評議員会(決議省略による)

- | | |
|------------------|----------------|
| 決議があったものとみなされた日 | 平成29年8月10日(木) |
| 決議があったものとみなされた事項 | 「高橋秀夫氏を理事にする件」 |

3月評議員会

期 日	平成 30 年 3 月 16 日(金) 13 : 35～16 : 50
場 所	東京視覚障害者生活支援センター 1階 会議室
議 題	1 平成 29 年度収支補正予算(案) について 2 平成 30 年度事業計画(案) について 3 平成 30 年度収支予算(案) について 4 第 66 回全国盲人福祉施設大会(下関大会) について
出席状況	評議員 8 名、理事 5 名、監事 1 名出席により成立

2. 委員会活動

- (1) 日盲社協社内検定試験運営委員会の開催__2回
 - 第1回 平成 29 年 4 月 18 日 (火)
 - 第2回 平成 29 年 12 月 7 日 (木)
- (2) 日盲社協社内検定試験実施委員会の開催__7回
 - 第1回 平成 29 年 5 月 12 日 (金)
 - 第2回 平成 29 年 8 月 8 日 (火)
 - 第3回 平成 29 年 9 月 5 日 (火)
 - 第4回 平成 29 年 9 月 15 日 (金)
 - 第5回 平成 29 年 9 月 22 日 (金)
 - 第6回 平成 29 年 10 月 13 日 (金)
 - 第7回 平成 29 年 11 月 24 日 (金)

3. 第 65 回全国盲人福祉施設大会の開催

期 日	平成 29 年 6 月 22 日(木)～23 日(金)
場 所	岐阜グランドホテル(岐阜県岐阜市)
主 管	社会福祉法人岐阜アソシア
参加者	約 200 名
内 容	研修会 テーマ『障害者差別解消法について』 講 師 弁護士 大胡田 誠 氏
	交流会
講 演	テーマ『あん摩師等法 19 条裁判の論点と行方』 講 師 国立大学法人筑波技術大学保健科学部 教授 藤井 亮輔 氏
式 典	(ボランティア・永年勤続職員・援護功労者表彰、来賓祝辞等)

4. 陳情活動

期 日	平成 29 年 7 月 28 日(金) 10 : 00～11 : 00
場 所	厚生労働省

参加者 理事長、常務理事、各部部长、ほか
内 容 第 65 回全国盲人福祉施設大会式典にて承認された決議内容について陳情
を行った。

5. 第 18 回日盲社協社内検定試験(点字技能師)の実施

実施期日 平成 29 年 11 月 12 日(日)
試験会場 東京：戸山サンライズ
大阪：日本ライトハウス情報文化センター
札幌：札幌市視聴覚障がい者情報センター
下関：山口県盲人福祉協会点字図書館
受験申込者 87 名
受験者 86 名(前年度 83 名)
合格者 25 名(" 18 名)
一部合格者 学科 3 名・実技 11 名(" 学科 12 名・実技 7 名)

6. 広報事業

「日盲社協通信」の発行 2 回 (Vol. 74、Vol. 75 墨字版・点字版)

7. 福祉関係団体への参加と活動

日本盲人福祉委員会、日本障害者協議会、日本点字委員会、日本失明予防協会、
障害者放送協議会、各関係団体へ委員・協議員等が参加し協力活動をした。

8. その他事業

(1) 東京日本橋ライオンズクラブ立川福祉基金助成事業への推薦・協力

会員施設	27 件	5,341,000 円
ライオンズクラブ推薦	6 件	3,500,000 円
ボランティア団体	28 件	3,159,000 円

計 1,200 万円

《点字出版部会》

1. 「点字図書出版速報」の発行（12回）

2. 「点字出版図書のデータベース」のデータ維持

3. 「点字出版図書総合目録点字版(平成29年度版)」全4巻の発行（40セット製作）

4. 点字版自治体広報誌の発行の普及・拡大に向けた取り組み

平成29年度の活動はなかった。

5. 「選挙公報」点字版製作のための活動

10月の衆議員選挙等に向けて、「選挙公報点字版事務局会議」を3回、「3媒体合同会議」を1回、「選挙公報点字表記委員会」1回、「選挙公報製作研修会」を東京・大阪で1回開催した。

6. 点字普及の取り組み

点字出版部会会員施設以外で作成された点字表記物に誤った事例があり、「点字製作物審査委員会」で情報入手を行い、点検を行った。（結果を次年度の活動に反映させる）

7. 事業部会の開催

期 日 平成29年6月22日（木）
場 所 岐阜グランドホテル（岐阜市）
出席者 11施設・18名

8. 中間部会の開催

期 日 平成29年8月25日（金）
場 所 ロゴス点字図書館
出席者 16施設・23名

9. 職員研修会の開催

期 日 平成29年11月30日（木）・12月1日（金）
場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
出席者 21施設・76名
テーマ 「ブレイル・シャトルの開発とそれに続く点字製版機の普及と歴史的経緯及び保守・整備上の問題点と対策」
「ZPメーカー保守・整備上の課題と対策及び「WinBred10」の開発と普及」
ほか

10. 役員会の開催

部会運営のため、部会役員会を2回開催した。

11. その他

関係機関との調整・打ち合わせ等を行った。

- ・大会決議について厚生労働省への陳情
- ・日本点字委員会の依頼により委員任期満了に伴う新委員の選出
- ・点字製版機・点字印刷機等の新規製作やメンテナンスの対応状況の相談に小林鉄工所を訪問

《情報サービス部会》

1. 部会総会の開催

通常部会総会

- 日 時 平成 29 年 6 月 22 日（木） 16：10～17：40
会 場 岐阜市「岐阜グランドホテル」
議 案 1 平成 29 年度運営体制
2 平成 28 年度事業報告及び同決算報告並びに監査報告
3 平成 29 年度事業計画案及び同予算案
4 その他 ①第 65 回全国盲人福祉施設大会決議文案
②音声版選挙公報製作
③その他特別委員会関係

2. 運営委員会の開催

- 第 1 回 日 時 平成 29 年 6 月 21 日（水） 13：00～17：00
会 場 岐阜市「視覚障害者生活情報センターぎふ」
議 案 1 平成 29 年度運営体制・各委員
2 平成 28 年度事業報告案及び同決算報告案
3 平成 29 年度事業計画案及び同予算案
4 第 65 回全国盲人福祉施設大会決議文案
5 部会総会役割分担
- 第 2 回 日 時 平成 30 年 2 月 27 日（火） 13：30～16：30
会 場 東京都「TKP 品川カンファレンスセンター」
議 案 1 平成 30 年度運営体制・各委員の確認
2 平成 30 年度事業計画案並びに予算案
3 その他特別委員会関係

部会監査会 平成 29 年 6 月 2 日（金） 下関市「山口県盲人福祉協会点字図書館」

3. 正副部会長会議

全国視覚障害者情報施設協会との三役会及び厚生労働省陳情（全国視覚障害者情報施設協会との合同）

平成 29 年 8 月 24 日（木） 東京都「厚生労働省自立支援振興室」

ほか随時メール等にて協議

4. 委員会活動

(1) 情報機器等支援者講習委員会

第 8 回情報機器等支援者講習会開催準備並びに運営委員会

5 月 19 日（視覚障害者生活情報センターぎふ）

1 月 19 日（ロゴス点字図書館）

(2) 点字指導員研修委員会

平成 29 年度点字指導員講習会（一部認定試験）開催準備並びに運営委員会

7 月 11 日（視覚障害者生活情報センターぎふ）

8 月 30 日（日本ライトハウス情報文化センター）

10 月 30 日（視覚障害者生活情報センターぎふ）

2 月 2 日～3 日（視覚障害者生活情報センターぎふ）

(3) 音訳指導員研修委員会

第 36 回音訳指導員講習会（音訳指導員認定講習会）開催準備並びに運営委員会

4 月 27 日～28 日（堺市立健康福祉プラザ 視覚・聴覚障害者センター）

6 月 29 日～30 日（日本点字図書館）

8 月 17 日～18 日（玉水記念館）

10 月 5 日～6 日（玉水記念館）

12 月 8 日（玉水記念館）

1 月 18 日～19 日（香川県視覚障害者福祉センター）

(4) 音声版選挙公報製作委員会

衆議院選挙音声版公報製作のための準備会委員会

7 月 4 日（日本ライトハウス情報文化センター）代表者会議

11 月 18 日（日本ライトハウス情報文化センター）代表者会議

1 月 7 日（TKP 品川カンファレンスセンター）委員会

1 月 31 日（日本盲人福祉センター）日本盲人福祉委員会との三媒体会議

(5) 特別委員会

① 指定管理者制度調査研究委員会（調査分析）

② 実態調査プロジェクト

委員会 2 月 19 日「日本の点字図書館 3 3」の送信
ほか随時メールにて連絡調整

5. 講習会の開催

(1) 第 8 回情報機器等の支援者講習会

期 日：平成 29 年 8 月 2 日（水）～4 日（金）

会 場：大阪市「日本ライトハウス情報文化センター」

参加者：29 名

(2) 第 29 回点字指導員講習会（一部認定試験）

期 日：平成 29 年 8 月 28 日（月）～29 日（火）

会 場：大阪市「西福祉記念会館」

参加者：116 名（再検合格 13/33 名）

(3) 第 36 回音訳指導技術講習会（音訳指導員認定講習会）

期 日：平成 29 年 11 月 15 日（水）～17 日（金）

会 場：大阪市「玉水記念館」

参加者：95名（合格57／93名）

(4) 第1回情報化対応支援者講習会(相談支援コース 基礎編)

期 日：平成29年11月30日（木）～12月1日（金）

会 場：東京都「日本点字図書館」

参加者：34名

6. その他

(1) 厚生労働省陳情（岐阜大会決議事項陳情）

日 時：平成29年7月28日（金）

場 所：東京都「厚生労働省」（部会長）

(2) 日本点字委員会総会への参加

日 時：平成29年6月3日（土）～4日（日）

場 所：大阪市「日本ライトハウス情報文化センター」（大澤委員長、佐賀委員）

(3) 障害者放送協議会

著作権委員会

日 時：平成29年6月22日（木）

場 所：東京都「戸山サンライズ」（原田委員）

災害時情報保障委員会

日 時：平成29年4月24日（月）

場 所：東京都「戸山サンライズ」（原田委員）

放送・通信バリアフリー委員会

日 時：平成29年6月22日（木）、11月24日（金）

場 所：東京都「戸山サンライズ」（林田委員）

(4) 日本盲人会連合と点訳・音訳養成カリキュラム等について協議

日 時：平成29年9月1日（金）

場 所：東京都「日本盲人福祉センター」（全国視覚障害者情報提供施設協会理事長、
部会長ほか）

《自立支援施設部会》

1. 通常部会（第 65 回全国盲人福祉施設大会）

期 日：平成 29 年 6 月 22 日（木）

場 所：岐阜グランドホテル（岐阜市）

参加者：14 施設 22 名

内 容：・昨年度部会報告と各施設現状報告

・今年度研修会について

・助成事業について

・大会決議文（案）について

参加各施設の現状報告と課題の共有を行った。

2. 自立支援施設部会職員研修会の開催

期 日：平成 30 年 2 月 22 日（木）～23 日（金）

場 所：神戸臨床研究情報センター（神戸市中央区）

参加者：17 施設 33 名

テーマ：「医療と福祉の連携を更に進めよう！」

目 的：スマートサイトの全国的な広がりを背景に、利用者へのスムーズな医療と福祉のサービス提供体制のあり方について、問題点・課題を整理し深めていく事を目的に開催した。

内 容：・部会報告

・ビジョンパーク（神戸アイセンター）の見学と説明（別府あかね氏：公益財団法人 NEXTVISION 情報コンシェルジュ）

・「大阪あいねっと」の活動等、医療との連携についての実践報告（岡田弥氏：日本ライトハウス情報文化センターサービス部長）

・講演「医療と福祉の連携」（高橋政代氏：公益財団法人 NEXTVISION 理事）

・全体会

医療サイドから福祉サイドへの期待として、①重度障害者への支援、②スマートサイトへの積極的なアプローチ、③制度・福祉サービスについての助言、各種訓練の充実、生き甲斐の提供（職業・娯楽・居場所等）の 3 点が挙げられた。全体会において、医療サイドからの期待を肝に銘じ、まずは自地域でのスマートサイトやロービジョンネットワークへ積極的に参画すること、福祉サイドとして現状できることをこれからも議論していくことを確認し、2 日間の研修を有意義に終わることができた。

3. 調査研究事業

「施設における虐待防止・差別解消対応実践解説書」（教職員共済生活協同組合助成）の作成と配布。

・平成 29 年 8 月 墨字版 300 部、テキストデージー版 CD 300 部が完成

・平成 29 年 9 月 日盲社協加盟施設 206 施設に墨字版・デージー版を配布（郵送）

- ・平成 29 年 10 月 全国の盲学校 68 校に墨字版・デイジー版を配布（郵送）

4. その他

○ 厚生労働省陳情

平成 29 年 7 月 28 日、他部会と合同にて厚生労働省担当課へ赴き、全国大会決議項目を中心に現状説明（陳情）と意見交換を行う。

《生活施設部会》

1. 生活施設部会事業部会

- 日 時 平成 29 年 6 月 22 日(木) 16 時 10 分～17 時 40 分
会 場 岐阜グランドホテル
部会の内容 (1) 平成 28 年度事業報告並びに収支決算報告
(2) 平成 29 年度事業計画並びに収支予算
(3) 生活施設部会の決議事項を実現させるための活動
(4) 参加施設による情報交換(各施設の状況等)

2. 生活施設部会施設長並びに職員研修会

- 日 時 平成 30 年 2 月 2 日(金) 13 時 00 分～平成 30 年 2 月 3 日(土) 11 時 30 分
会 場 京都ライトハウス 高齢者総合福祉センターライトハウス朱雀
当番施設 社会福祉法人京都ライトハウス
 高齢者総合福祉センター盲養護老人ホームライトハウス朱雀
研修内容 2 月 2 日
 13 時 30 分～15 時 00 分 講演 1
 演題「京都視覚障害者支援センターの現状と課題」
 講師 社会福祉法人京都視覚障害者支援センター
 常務理事 田尻 彰 様
 15 時 20 分～16 時 50 分 講演 2
 演題「京都ライトハウス情報製作センター(点字出版事業)の現状と課題」
 講師 社会福祉法人京都ライトハウス情報製作センター
 所長 渡辺 昭一 様
 18 時 30 分～20 時 30 分 交流会(京都市上京区東堀川通下長者町所在の
 ホテルルビノ京都堀川において)
 2 月 3 日
 9 時 20 分～9 時 50 分 ライトハウス朱雀概要説明
 盲養護老人ホームライトハウス朱雀 施設長 伊藤 康子 様
 10 時 00 分～11 時 00 分 施設見学
 高齢者総合福祉センターライトハウス朱雀
参加施設数 15 施設
参加人数 24 名

3. 決議事項を実現させるための活動

平成 29 年 7 月 28 日(金) 10 時 00 分から 11 時 00 分 厚生労働省共用第 2 会議室において
厚生労働省の担当課に決議事項を実現させるための陳情を行った。

《盲人用具部会》

1. 全国大会での展示会

6月24日(土)、岐阜アソシアにて用具部会主催の展示会

2. H. C. R. 国際福祉機器展出展

期 日 9月27日(水)から29日(金)まで

場 所 東京ビックサイト

内 容 生協からの助成を受け、第44回 国際福祉機器展 H. C. R. 2017 への出展、
健常者に点字や白杖の体験などを実施

3. 学習会の実施

日 時 平成30年1月16日(火)

会 場 日本点字図書館

内 容 厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室 福祉用具専門官 秋山 仁様
を講師に、今後の日常生活用具の国の方針について、学習を行った。
約30名が参加し、会場の日本点字図書館の会議室は満員となった。

4. 部会の開催

第1回 日 時 6月22日(木)

会 場 全国盲人福祉施設大会(岐阜大会)

第2回 日 時 平成30年1月16日(火)

会 場 日本点字図書館

5. 陳情活動

日 時 平成29年7月28日(金)

場 所 厚生労働省

内 容 全国大会決議事項を要望、陳情した。

6. その他

国際福祉機器展出展のために部会のパンフレットを作成し、各社の取り組みなどを掲載した。このパンフレットを国際福祉機器展来場者に配布し、一般の人々への啓蒙活動を行った。

平成 29 年度 盲人ホーム「杉光園」事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

本年度はひとり一人の課題を把握し、利用者の施術改善指導にあたった。そして一日も早く職業人としての「社会自立」ができるよう個人面談、ハローワーク、企業に出向いて情報収集に努めた。その結果 2 名が就労できた。

1. 見学・実習・講演会の実施について

見学・実習については、一部利用者に対してではあったが、企業サイドの理解と協力により実施することができた。そのうちの 2 名について、高齢者施設と企業のヘルスキーパー職に就く事ができ活躍している。今後も状況に応じて、実施できるように努めたい。

2. 手引き書の作成について

本施設の指導員を中心にして、内容について検討・精選し、それを基に施術カンファレンスを行った。資金面で、公益信託 東京日本橋ライオンズクラブ立川福祉基金のご助成を頂き、「理療師のためのアドバンス (ADVANCE) 施術マニュアル」を刊行した。来年度は、視覚障害者に活用してもらえるよう、製作費用面での見通しがたてばデジ版の発行を進めたい。

3. PC を利用してのカルテ管理について

カルテの形式を確定し、現在有るカルテの入力については完成した。利用者の PC スキルが異なるため、個々での入力練習を進めた。

4. 企業や個人からの相談に対する対応について

平成 29 年度も、4 社から 9 名の社員に対しての研修相談を受け実施した。また、利用者からは有意義な研修だったと評価をいただいた。また、利用者からも進路相談や健康相談を受けた。健康相談では、医学的判断を仰ぐ必要があったため、医療機関で数回にわたり相談に行った。今後も、就労の継続の支援のため、利用者を正しく理解するうえでもために継続したい。

平成 29 年度 盲人ホーム「杉光園」利用実績表

	登録利用者数	延利用者数	種 別						合 計		利用料 (20%)
			マッサージ		は り		二 科		件数	金額	
			件数	金額	件数	金額	件数	金額			
4 月	10	58	31	104,000	0	0	0	0	31	104,000	20,800
5 月	10	66	33	109,000	0	0	4	18,000	37	127,000	25,400
6 月	9	64	47	165,300	0	0	0	0	47	165,300	33,060
7 月	9	62	46	175,600	3	12,700	0	0	49	188,300	37,660
8 月	9	63	35	127,400	4	21,000	0	0	39	148,400	29,680
9 月	9	54	37	148,200	2	10,500	1	5,300	40	164,000	32,800
10 月	9	62	51	190,600	5	25,300	1	5,500	57	221,400	44,280
11 月	9	63	46	156,300	10	46,600	0	0	56	202,900	40,580
12 月	8	52	32	120,100	1	4,500	0	0	33	124,600	24,920
1 月	7	49	22	85,900	1	4,500	1	4,700	24	95,100	19,020
2 月	7	47	42	164,500	1	3,000	0	0	43	167,500	33,500
3 月	8	60	61	233,600	6	31,500	0	0	67	265,100	53,020
合計	104	700	483	1,780,500	33	159,600	7	33,500	523	1,973,600	394,720

平成 29 年度 日盲社協レッツゴー事業所 事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

本年度は都内の利用者数が増加し始めた。地方・都内の利用者依頼先は、会議出席のための同行援護が最も多かった。中でも「勲章受章者」の同行援護依頼がありよい経験となった。

同行援護を利用しての訪問先

東京在住のかた		地方在住のかた	
会議	病院での受診	コンサート	区役所
入院患者の見舞い	各種買い物	習い事	イベント体験
東京観光	ハトバス乗車	遊園地・動物園	入学受験
教養講座受講	教室・習い事	結婚式・法事	コンクール出場の同行
同窓会出席	落語・演芸場	工場見学	公園散策
ハイキング	美容院・床屋	ディズニーランド	日本点字図書館 用具部

同行援護依頼数は、537 件で¥4,925,590 であった。
(月次利用者数と報酬収入は次ページ参照)。

1. 利用者の障害程度：福祉サービス区分の介護なしの方が多かった。
2. 男女比：4：6 であった。
3. 契約時間数：平均受給量は 50 時間で、うち 25 時間をレッツゴーと契約した利用者が多かった。
4. 実登録ガイド：9 名
5. 介護事業所の不正請求が目立った 1 年であった。当事業所ではその都度請求時間の確認を利用者に求めるよう、ガイドヘルパーに徹底させた。
6. 団体等で同行援護事業所の説明を行い、利用促進をお願いした。

月次利用者数と報酬収入

項目 月数	月別利用者数	月別報酬収入	利用者負担収入
4月	40	293,127	0
5月	56	478,540	6,071
6月	49	375,754	7,906
7月	39	432,300	7,390
8月	39	337,933	18,340
9月	40	351,085	7,557
10月	42	321,615	3,637
11月	47	493,978	8,461
12月	42	350,417	9,315
1月	36	327,654	8,246
2月	46	431,831	7,883
3月	61	605,742	40,808
合計	537	4,799,976	125,614

平成 29 年度 東京視覚障害者生活支援センター 事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

<総括>

平成 29 年度は、民間移譲 1 年目となり、運営の円滑化をまず一義的に考慮せねばならない年度となった。

結果として、機能訓練の年間平均利用率は 84%。就労移行支援は 63.5%。合計では 76.4% という結果になった。これは、年度当初に目標としていた利用率 75% を超え、目標の達成は果たされたと言える。その結果、新宿区や東京都からの補助金を含めた総収入は 9,000 万円を超え、平成 29 年度は収入が支出を上回ることとなった。

機能訓練の総利用者数は 91 名、延べ人数は 5,067 名。就労移行支援の総利用者数は 51 名で延べ人数は 2,296 名。両部門の合計は、総利用者数 142 名、延べ人数は 7,363 名となった。総利用者数 142 名は昨年度から 20 名の増となり、利用率を押し上げることに繋がったとみられる。また、特定相談支援事業の利用者数は 19 名で、ほぼ予定していた人数となった。

利用者の年齢は、機能訓練では 19 歳から 80 歳と幅広く、平均年齢は 53.1 歳、就労移行支援では 21 歳から 64 歳、平均では 41.9 歳であった。機能訓練では、男女の平均年齢に大きな差がないのに比べ、就労移行支援では男性が 45.7 歳であるのに対し、女性の平均年齢は 33.7 歳と男女に大きな違いが見られた。これは、比較的年齢の低い男性利用者少なかったことによるものとも考えられ、今後、利用者獲得にあたって考慮すべき点と思われる。

利用率の向上、維持のためには、利用者の発掘が最低限求められるが、平成 29 年度も引き続き、行政機関向けの研修会、視覚障害当事者対象の体験訓練会を実施することで、センターの広報や視覚障害リハビリテーションの理解に努めてきた。体験訓練会は、従来日程を指定して実施してきたが、指定した日数を減らし、一方で体験訓練の希望がある場合に随時実施する方法も導入し、体験訓練を利用しやすい形態とした。

行政機関向けの見学会は 4 回、参加者は 40 名。体験訓練会は 4 回合計 15 名の参加があった。このうち 4 名は利用に結び付いた。また、民間移譲に合わせる形でパンフレットを一新し、好評を得ることができた。

さらに、東京女子医大病院眼科外来での定期的な相談活動も 2 か月に 1 回の頻度で続した。外来での相談からセンター利用につながったケースもあり、地道に継続していく必要性を感じている。

2018 年 1 月には、東京都眼科医会が中心となって、東京都ロービジョンケアネットワークが設立され、多くの医療機関、福祉施設が参加することとなった。6 つのカテゴリーに分けて、それぞれの代表施設を中心として、視覚障害者の相談に乗っていくシステムであるが、訓練部門では、当センターが代表施設となり、医療と福祉の連携を進めていくきっかけ作りができるようになったが、現段階では利用に直接結びついた事例は、残念ながら 1 例もなかった。

利用者の確保に向けての方策はある程度確立しており、さらに、利用者確保の基本となる

訓練というサービスの質の向上については、第三者評価の結果にも見られるように、利用者からは良い評価をいただいている。しかし、機能訓練においては、もっと訓練の時間を確保してほしいとの希望も継続してあり、今の職員体制の中で、どこまで対応できるのか今後検討が必要だと考える。

1. 機能訓練課

利用率の向上に向けた取り組みは前述したとおりであるが、利用者の利便性を考えたとき、欠席の場合の振替の実施や、時間割の変更など柔軟な対応を行うことが、利用者の訓練への動機づけを高めるとも考えられ、今年度、実施をしてきた。今年度の利用率の高さは、こうした取り組みのひとつの結果とも考えられる。特に、今年度は、個別支援計画への記載を前提として、より柔軟に訪問も行い、欠席への対応も行うことができた。

また、従来の歩行、点字、パソコン、日常生活訓練に加え、ロービジョンへの取り組みをより強め、ロービジョンの評価や機器の利用方法の説明等も多く時間を割いて行った。さらに、こうした訓練だけではなく、ヨガやストレッチなど体を動かすことを中心とした朝活や、新たにチェア体操などの導入も行い、利用者の健康管理にかかわるプログラムも準備した。民間移譲に伴う職員の危機意識がサービス面でもプラスに働いたと考えられる。

2. 就労支援課

就労移行支援の本来の目的である一般就労については、別添資料のとおり、8割以上の利用者が企業等に就職することができた。最近では在宅就労の形態も出てきており、今年度2人の方の在宅就労が実現できた。

三療資格を有する利用者の就労については、ヘルスキーパーを希望する方が多いが、企業内の情報共有の重要性を鑑み、パソコンの技術をしっかりと習得することも大きな目標としている。また、施術技術については、施術日を設け、センターで活動しているボランティアや隣接のレストランの従業員を対象として施術を行い、その結果をフィードバックしていただくことで、技術の向上を図っているが、継続的に企業の協力も得て、出張しての施術も実践できるようにした。

就労実績が順調であるのに反し、利用者数の伸びが鈍っていることが大きな課題とも言え、今後、自治体や学校、ハローワークへの働きかけを強化していくことが必要と考えている。

3. 特定相談支援事業

特定相談支援については、平成29年度から開始した事業であり、主として、センター利用希望者や利用者、終了者を中心に支援を行った。

特に、センター終了者については、視覚障害の理解が不十分な相談支援より、住まいが遠方でも、視覚障害そのものを理解するセンターでの計画作成やモニタリングを望む声が強かった。

本年は19名に対して、計画作成、モニタリングを実施した。

4. 講師等の派遣

今年度も以下の講師派遣を行った。

(1) 同行援護養成研修ならびに現任訓練

足立区、1 大田区、世田谷区、国際医療福祉大学

(2) 専門学校等への講師派遣

国立障害者リハビリテーションセンター学院、上智学院、東京医歯薬専門学校、

(3) 地域の当事者の集まりへの講師派遣

府中市、東村山市、調布市、葛飾区

(4) 学校の授業への協力

東京女学館中学、都立小金井北高校、中野区立桃園小学校、東京芸術大学

(5) 福祉団体等の研修への講師派遣

日本盲人会連合、全国盲老人福祉施設連絡協議会、障害者リハビリテーション協会、JICA

(6) 企業の社会貢献事業への協力

日本ユニシス、ジョンソン&ジョンソン、東京地下鉄

(7) その他

都立文京盲学校、東京都心身障害者福祉センター

また、毎年、新宿区が実施している相互研修にも参加し、新宿区内の施設から研修生の受け入れを行った。

さらに、近隣の東京女子医科大学の5年生が毎週1回、センターの見学を実施した。これは3年以上続いているもので、医療と福祉の連携に密接につながるものとして、力を入れている。

5. 避難訓練の実施

総合避難訓練を実施し、火災時の心構えや動きについて確認した。

6. 建物の維持管理等

(1) エレベーターの改修工事を実施。

(2) 倉庫のドアの修繕。(強風で火災報知機が誤作動を起こすため)

(3) 日々の清掃ならびに床や窓ガラスの年2回の清掃については、委託して実施。

7. 職員関係

(1) 職員研修

全国盲人福祉施設大会や日盲社協の研修会、虐待防止研修会、視覚障害者リハビリテーション研究会などに参加し、職業リハビリテーション大会ではポスター発表等を行った。

(2) 職員の健康診断を実施した。

【別表】 平成 29 年度利用者の状況

1. 利用状況

区 分	機能訓練	就労移行	計
定 員	25	15	40
今年度当初人員	46	27	73
開 始 人 員	45	24	69
終 了 人 員	47	27	74
今年度末人員	44	24	68

2. 月別利用人員

区 分	機能	就労	計
4 月	50	27	77
5 月	49	29	78
6 月	46	29	75
7 月	49	30	79
8 月	52	24	76
9 月	49	27	76
10 月	49	27	76
11 月	47	30	77
12 月	45	27	72
1 月	42	27	69
2 月	46	30	76
3 月	47	30	77

3. 月別利用率

区分	機能	就労	全体
4月	79.0	63.0	73.0
5月	77.8	64.3	72.8
6月	77.5	70.6	74.9
7月	77.8	73.3	76.1
8月	84.5	46.7	70.3
9月	87.8	60.7	77.6
10月	90.0	57.7	77.9
11月	88.4	64.7	79.5
12月	85.5	56.5	74.6
1月	79.8	66.7	74.9
2月	88.4	71.9	82.2
3月	91.6	67.3	82.5
年間	84.1	63.5	76.4

(単位は%)

4. 年齢別

	機能	就労	計
20歳未満	2	0	2
20～29	7	11	18
30～39	7	10	17
40～49	14	14	28
50～59	27	13	40
60歳以上	34	3	37
計	91	51	142

5. 援護の実施機関別

区分	機能	就労	計
23区内	69	38	107
市部	4	7	11
郡部	1	0	1
他県	17	6	23
計	91	51	142

6. 障害歴別

区 分	機能	就労	計
5 年 未満	59	29	88
5 ～ 9	13	6	19
10 ～ 19	14	13	27
20 年 以上	4	3	7
不明	1	0	1
計	91	51	142

7. 終了者の利用期間別

区 分	機能	就労	計
6ヶ月 未満	6	4	10
6ヶ月 以上	12	7	19
1年 以上	27	13	40
2年 以上	2	2	4
計	47	27	74

8. 利用者の終了理由別

区 分	機能	就労	合計
1. 就 職 (現職復帰を含む)	7	22	29
2. 家 庭 復 帰	37	3	40
3. 当センター就労移行	6	0	6
4. 国立障害者リハビリテーションセンター	0	0	0
5. 上記以外の施設・学校	1	2	3
6. 入 院	0	0	0
7. 死 亡	0	0	0
計	47	27	74

平成 29 年度 検定試験事業 事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

厚生労働大臣認定資格 第 18 回点字技能師検定試験

1. 試験実施日 平成 29 年 11 月 12 日 (日)
2. 試験会場 東京：戸山サンライズ
大阪：日本ライトハウス 情報文化センター
札幌：札幌市視聴覚障がい者情報センター
下関：山口県盲人福祉協会点字図書館
3. 受験申込者 87 名 (東京:40 名 大阪:37 名 札幌: 5 名 下関: 5 名)
4. 受験者 86 名 (東京:39 名 大阪:37 名 札幌: 5 名 下関 5 名)
5. 合格者 25 名 (点字使用者 11 名・墨字使用者 14 名)

{	学科試験・実技試験とも受験 54 名のうち 11 名	}
	学科試験のみ受験 11 名のうち 6 名	
	実技試験のみ受験 21 名のうち 8 名	
6. 一部合格者 学科 3 名 (点字使用者 1 名・墨字使用者 2 名)
実技 11 名 (点字使用者 4 名・墨字使用者 7 名)
7. 合格率 29.1%

平成 29 年度 日盲社協事業報告附属明細書

平成 29 年度事業報告には、社会福祉法施行規則第二条の二十五の第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しませんでした。